

# 外環道路特別委員会 委員会視察報告

令和5年12月4日

委員長 小美濃 安弘

視察日程 令和5年11月27日（月曜日）

視察場所 東京外かく環状道路 大泉側本線トンネル工事現場

参加者 委員長 小美濃 安弘  
副委員長 三島 杉子  
委員 道場 ひでのり、深田 貴美子、宮代 一利、浜田 けい子  
さこう もみ、川名 ゆうじ、  
委員外議員 大野 あつ子、東山 あきお、落合 勝利、藪原 太郎  
与座 武、橋本 しげき、西園寺 みきこ

外環道路特別委員会（令和5年11月27日）

日 時	令和5年11月27日（月曜日）午後1時から午後3時15分まで
視察先	東京外かく環状道路 大泉側本線トンネル工事現場
テーマ	大泉ジャンクション工事現場及び本線トンネルの現状について
目 的	東京外かく環状道路の現状に対する認識と理解を深めるため
内 容	<p>外環道路特別委員8名、委員外議員7名、合計15名が参加。</p> <p>対応いただいたのは、国土交通省関東地方整備局東京外かく環状国道事務所2名、東日本高速道路株式会社東京外環工事事務所2名、中日本高速道路株式会社東京工事事務所2名の、合計6名です。</p> <p>最初に、事務所で外環事業全体の概要を、パネルや模型を使用し説明を受けました。模型は、実際のシールドマシンの仕組みをわかりやすくしたものでした。先般発生した、調布市の道路陥没事故がシールドマシン内のチャンバーで土と添加剤が分離したことが原因だったということも、この模型を使用して説明されました。また、土に添加剤を混ぜると流動性が増すことを、実際の添加剤を使用した土を触らせていただき実感できました。</p> <p>次に、実際のトンネル内に入りました。前回の東名ジャンクション工事現場視察では、工事が止まっていたため、一定の位置まで車の送迎がありましたが、今回は工事中ということもあり、片道約1.8kmを徒歩で往復することになりました。今回の視察で特徴的だったのは、カッター部分の後方に添加剤の台車がセットされていたことです。この台車で、土の質に応じて気泡剤やベントナイトを調整することでした。陥没事故以来、閉塞を起こさないよう、最新の注意を払っていることが感じられました。シールドマシン自体は動いていませんでしたが、工事中ということで、掘削した土を運ぶベルトコンベアの操作室、また、カッター部の先端にどの程度のトルクが掛かっているか、掘削した土の量は適切かなどを監視する操作室が見学できたのも、良かったと思います。</p> <p>陥没事故に関しては、改めて職員の方から反省の弁が述べられました。二度とこのような事故が発生しないよう、細心の注意を払って事業を進めるとのことでした。</p>
成果（参考になった点）、課題等	<p>4月の選挙で初当選した議員の参加もあり、外環の現状や課題がより把握できたのではないかと思います。また、実際に土に添加剤を混ぜたときの手触りや形状を実感できたことは、今後委員会における質疑にも役立つものと思われます。陥没事故後も、人間川での気泡の発生や、調布陥没事故敷地の地盤改良など、委員会での議論や確認が必要になってきます。大泉からの掘削は今後も進められる予定なので、武蔵野市内に到達する前に、しっかりと議論につなげていきたいと思っております。</p>

